

## 事務事業評価表（建設事業等）

1次評価日（主幹等） 31年3月31日

2次評価日（課長等） 31年3月31日

1 事業名	湖周地区ごみ処理施設整備事業			コード	81201	
2 担当部課	部等	市民環境部	課等	市民環境課	作成者	吉田 和正
3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち			
		政策	循環型社会の構築	施策	廃棄物対策の推進	
		予算科目	湖周地区ごみ処理施設費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	あり	

## ●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	湖周地区（岡谷市、諏訪市、下諏訪町）から排出される一般廃棄物を、広域的に共同で処理を行う。		
目的	対象者	湖周地区（岡谷市、諏訪市、下諏訪町）の住民。	
	意図	環境負荷の低減と循環型社会の構築を目指す。	

5 事業の必要性	*事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由		
大量生産・大量廃棄型の社会から3Rを推進し、循環型社会の形成に向けて、ごみを適正に処理することが必要になり、住民、事業者、行政が連携して広域的に取り組むことが求められた。			

6 事業の全体計画	*各年度の取組計画		
予定全体事業費	2,246,239,000	円	事業期間 H23年度～H33年度
28年度まで	中間処理施設建設工事及び機器据付け、7月から試験運転を開始し、12月から本格稼働となった。岡谷市発生ごみの共同処理事業を継続し、最終処分場については建設地を決定した。		
29年度	最終処分場建設に向け、下流域の辰野町と十分な話し合いの機会を設け、理解を深めていただくなかで、環境影響調査等の事前調査への着手も検討する。		
30年度	最終処分場建設に向け、下流域の辰野町と十分な話し合い、勉強会の機会を設け、環境影響調査等の事前調査への着手も検討する。		
31年度以降	最終処分場建設にあたり、事前調査を含む事業推進に向けて、反対同盟会・辰野町との懇談会、対話を重ね、理解が深まるよう粘り強い対応を図る。		

7 事業の実施内容	*各年度の進捗状況		
28年度まで	中間処理施設建設工事、機器据付けを完了。7月からの試運転を経て、12月から本格稼働となった。8月末までは共同処理事業を実施し、11月末まで仮設ごみ預かり所を運営した。12月以降は市民が草・剪定枝等を無料で持ち込むことができる資源物等預かり所を新たに設置した。		
29年度	・平成29年4月からの2市1町の統一に向けた取り組みのひとつとして、条例改正を実施した。		
	①ごみの名称変更「燃えるごみ」⇒「燃やすごみ」、「燃えないごみ」⇒「埋立ごみ」 ②祝日収集の実施 ③手数料徴収方法の変更（持込手数料を組合で徴収）		
30年度	・新施設稼働に伴うごみの持込みについてチラシ等を作成し、市民へ周知した。		
	・2市1町のごみの排出方法の統一に向けての検討を実施した。 ・湖周議員と先進地処分場の視察を行った。		
前年度の課題への対応	辰野町に十分な話し合いの機会を設けてもらい、安全性など理解を深めていただく。		

## 8 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度まで(累計)	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	838,181,879	78,088,792	100,221,325	243,635,000
経常経費				
臨時的経費	838,181,879	78,088,792	100,221,325	243,635,000
* 臨時的経費の説明	負担金（運営費、事務費、建設費、基金、公債費、共同事業費）			
② 人件費		3,600,000	3,600,000	3,600,000
正規職員の人数（人）		0.45	0.45	0.45
③ 合計コスト（①+②）	838,181,879	81,688,792	103,821,325	247,235,000
前年度比			127.1%	238.1%
財源				
一般財源	527,408,217	46,183,452	66,615,965	206,881,000
内訳				
特定財源	310,773,662	35,505,340	37,205,360	40,354,000
* 特定財源の説明	廃棄物処理手数料			

## ●事業の評価（CHECK）

### 9 事業の進捗状況

区分	28年度まで(累計)	29年度	30年度	31年度(予算)
進捗率				
直接事業費の執行率	37.3%	40.8%	45.3%	
その他の進捗率				
* その他の進捗率の説明				

事業をとりまく環境変化	今まで	<p>（これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと）</p> <p>中間処理施設建設に伴う公共工事設計労務単価の上昇による請負金額の増額（インフレスライド条項の適用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H26.8請求額：2,769,120円</li> <li>・ H28.4請求額：4,796,200円</li> </ul>
	今後	<p>（31年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること）</p> <p>最終処分場の建設の際にも、同様のケースが考えられる。</p>

## ●改善の内容（ACTION）

### 10 今後の課題と対応策

今後の課題	<p>（環境変化を考慮して事業を進めていく上で、31年度以降に課題になること）</p> <p>最終処分場の建設にあたり、下流域にあたる辰野町住民の理解を得ること。</p>
課題への対応策	<p>（上記の課題をふまえて31年度に実施する、具体的な対応方法）</p> <p>辰野町に十分な話し合いの機会を設けてもらい、安全性など理解を深めていただく。</p>

## ●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	---	---